

脳卒中発症後の骨格筋量の推移と関連因子に関する研究

—急性期・回復期共同研究—

臨床研究へのご協力をお願い

脳卒中では、発症後に安静などにより筋肉量が低下してしまうことや手足の麻痺によって筋肉の機能低下が生じやすいことが報告されています。また加齢により筋肉量と筋力が低下する病態である「サルコペニア」という病態についても注目されています。回復期リハビリテーション病棟へ入院した方では多くの方がサルコペニアを呈しており、日常生活動作能力（歩く、お風呂に入るなど）にも悪影響を与えることが明らかになっています。しかし、脳卒中発症後から退院までの期間で筋肉量がどのように推移するのか、また脳卒中発症時のサルコペニアが回復期リハビリテーション病棟退院時の能力にどのような影響を与えるのかはよくわかっていません。

今回の研究では、名古屋第二赤十字病院へ脳卒中の治療のため入院され、その後当院回復期リハビリテーション病棟へ転院した方を対象として、脳卒中発症後の筋肉量の推移とその関連因子について検討することを目的としています。

調査項目は、基礎情報（身長、体重など）、血液データ、栄養状態、筋肉量、筋力、運動機能、日常生活動作能力、認知機能、口腔機能、転倒回数、退院先、その他付随する臨床及び検査所見で、対象となる方は名古屋第二赤十字病院へ入院し、脳卒中のリハビリ目的で当院へ転院した方です。

この研究は日常診療で行っている内容を振り返って検討する研究であり、これにより新たな検査や費用のご負担は生じません。また、研究で扱う個人情報は個人が特定されない形で厳重に取り扱います。皆さまの貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。この研究に関する研究計画書を閲覧されたい場合、あるいはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望される方、途中で研究使用の中止を希望される方、またこの研究に関して質問や相談をされたい方は、下記の連絡先までご連絡をお願いいたします。

[問い合わせ先]

〒465-8620 愛知県名古屋市名東区梅森坂五丁目 101 番地

国立病院機構東名古屋病院 饗場 郁子

電話 052-801-1151 (代表)